

# 令和5年度 町政執行方針



3月8日から開催された第1回町議会定例会において、岩村町長が、令和5年度の町政執行方針と予算編成概要を述べましたので、お知らせします。

令和5年第1回町議会定例会の開会にあたり、私の町政執行に対する基本的な姿勢と考え方、ならびに令和5年度予算概要について申し上げます。

3期目の町政を任され2年目に入りました。私は、町政をあくまで以前より、地域の活性化、とりわけ基幹産業の振興が何よりも重要であるとの考えから、後継者の育成をはじめとする「持続可能な八雲町、明るく未来ある八雲町を築き上げる」ということを目指し、雇用の創出、産業の活性化に繋げる施策を推進してまいりました。

農業においては、「株式会社青年舎 大関牧場」を核として、新規就農研修生の受け入れ等を行い、酪農畜産のみならず、幅広く地域農業の振興策を推進してまいります。

また、漁業においては、

「サーモン海面養殖試験事業」が4年目を経過し、本格事業化へ向け、「サーモン種苗生産施設整備」を進めるとともに、「北海道二海サーモン」のブランド化と生産から販売までの体制構築を目指してまいります。

役場庁舎等移転整備については、今まで分散していた役場機能を一元化し、コンパクトで利便性が良く、将来の維持管理コストの縮減が図られる新庁舎となるよう進めてまいります。

2030年度の新幹線新駅の開業を見据え、令和4年度から明かり区間工事に着手しており、「牧場の中にある駅」をコンセプトとして駅周辺整備を進めるため、今年度から2カ年にわたり「駅周辺整備計画策定」に取り組みます。さらに、駅周辺はもとより町全体として一人でも多くの乗

降客が増える魅力あるまちづくりが重要であり、新たな産業や観光資源の創出、まちのブランド力向上を図るため、引き続き、企業などの誘致に向けて努力してまいります。

脱炭素社会の実現に向け、昨年「ゼロカーボンシティ八雲」を宣言しました。令和5年度は、「八雲町温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、行政、町民、事業者による省エネルギー活動や再生可能エネルギーの利用促進など、具体的な取り組みを推進してまいります。

令和6年3月に「北海道木彫り熊発祥の地」として、100周年を迎えます。ここ数年、雑誌やメディアに取り上げられ、さらに、大手セレクトショップの「ビームス・ジャパン」と連携し、木彫り熊をモチーフとしたグッズが開発されるなど、その価値や魅力が再発見されています。今後は、100周年記念事業の企画に取り組んでまいります。

「ふるさと応援寄附金奨励事業」は、貴重な財源確保と地域特産品PRの両面から、

これまで政策の柱として取り組んでおり、魅力的な返礼品の充実や全国に向けたPR活動を推進するとともに、「企業版ふるさと納税」についても各種企業へのPRに努めてまいります。

地域で安心して暮らすためには、医療の充実が何よりも重要であります。

八雲総合病院は、北渡島・桧山圏域の地域センター病院として、引き続き、「新型コロナウイルス感染症」の治療拠点としての役割を果たすとともに、常勤医師確保と経営改善に努めてまいります。

熊石国保病院の建替事業については、将来的な人口減などを踏まえ稼働病床数を30床、建替場所を特別養護老人ホーム隣の町有地とすることで決定し、令和7年5月の開院を目指し進めてまいります。